

大学教授が語る霊性の真実

— 魂の次元上昇を求めて

濁川 孝志

『大学教授が語る靈性の真実』に寄せて

東京大学名誉教授 矢作直樹

本書は、濁川先生の「人々の靈性の喪失が現代社会の諸々の問題点を生み出してきた」という強い思いから生まれたものです。そのために、一般の人達にできるだけ分かり易く「靈性」を伝えたいという熱意が伝わってきます。

世の中は、物質的繁栄を求めた拝金主義により、世界中の富の半分以上を人口のわずか1%の富豪が握るといふ貧富の二極化、極端な気候変動と甚大な自然災害をきたしています。濁川先生は、この20年靈性を研究の中心に据えながら「人の生きる意味を問う」トランスパーソナル心理学を研究してこられました。その答えこそが、今のこの混沌とした世の中に求められているのです。濁川先生は、研究者の視点で客観的かつ論理的に「靈性」を捉えようとされています。きっと読者の方々に伝わるのではないかと思えます。

靈性について考える時に重要なのは、祖先である縄文時代の人々です。彼らは豊かな靈性のもとに暮らし、大きな争いごとの無い社会を1万年数千年も維持したと言われます。現代の私たちも、先祖を見習って一人ひとりが靈性を磨き、万物と調和するよう価値観を変えて行きたいものです。

濁川先生は、この縄文の生き方から、人間の本質である魂がこの三次元世界にとどまらず高次元にまで拡大することを述べられています。それを考える拠所として今の未熟な科学の最先端である量子論がようやく概略を捉え始めたこと、それを超えた次元を表す事実としての靈的な現象について考察を巡らされます。

多次元世界に敷衍^{ふえん}する量子論はごく一部の物理学者を除いて、物理学者でも専門外ですので、当然世間での「科学」の常識にはなっていません。従って、多くの人たちにとって高次元世界のことを「科学」が説明するまでには至りません。濁川先生は、靈能力、物質化現象や生まれ変わりの真実など、近代の西洋や日本のさまざまな具体的事象を述べることでその溝を埋めようとされています。

そして、「大航海時代」のヨーロッパでキリスト教に縛られた常識から、コペルニクスやガリレオに代表される新たな自然界へのアプローチが生まれた「発想の大転換」を強調されてい

ます。しかも、「科学的な叡智と言うのは、直感によってもたらされる」。言い換えれば、それは科学の範疇と言うよりも、むしろ直感という靈性の範疇から「科学的な叡智」が生み出されることを指摘されています。そこに、自分の意識の壁に囚われることなく、虚心坦懐に事実を見た上で向き合って考えてほしいという濁川先生の熱い思いが感じられるのではないのでしょうか。

濁川先生は、座学だけでなく、実際に幾多のシンポジウム、対談や映画上映により靈性を伝える人々の紹介をされてきました。そうすることで直接一般の方々に靈性について身近に感じてもらえたのではないかと思います。2019年12月に開かれた「靈性と現代社会」というシンポジウムでは500人の聴衆に、靈性の意味するところを語り、それを前提に現代社会を調和に導く上での靈性の重要性を指摘されました。さらに、2018年には立教大学で『日本トランスパーソナル心理学／精神医学会』の学術大会を開催し、「自然とスピリチュアリティ」と題するシンポジウムを催されました。

先生の立教大学の『ウエルネス福祉論』という講座では、共同研究者の飯田史彦先生の『生きがい論』をベースに、靈性（スピリチュアリティ）を重要なテーマとして、人が生きる意味や靈性の重要性に関して学生に伝え議論してこられました。同講座では、池川明先生の『胎内記憶』

も取り上げ、また池川先生に授業していただき、濁川先生ご自身が創案されたスピリチュアリティ評定尺度（JYS）を用いて学生の霊性のレベル、生きがい感、見えない世界への理解の向上を確認され、「霊性は教育によって醸成できる」という大変大きな可能性を示されています。JYSの確立により、先生が本題とされる「自然と霊性の関係」の実証研究に取り組んだ結果、短期の自然体験が霊性、生きがい感や精神的健康度を向上させることを示されています。さらに、過去の自然体験が多い人ほど霊性が醸成されている可能性を示唆されています。このように自然体験の重要性を客観化して示されたことは意義深いことです。これは先生の研究対象でもあるアラスカの大自然で生きた写真家星野道夫の世界観にも通底します。

もう1年余も続いている新型コロナウイルス騒動について、人の移動・行動制限による分断・孤立・萎縮から人としての営みそのものである経済活動に甚大な影響を与えました。そこから先生は、これまでの物質的繁栄を尊ぶ価値観から自然と共存してゆくことでの心の平安を求める霊性に根差した価値観への転換の必要性を強調されていて、読者の皆様も賛同されるのではないのでしょうか。

そして、最後に「日本人の役割とこれからの生き方」で、古来の日本人の「多様なものを受け容れそれとの共存共生を目指す価値観」こそが、これからの世界中の人々がやがて共有すべ

き思想であること、その為には今の私たち自身がその思想を思い出し、「靈性」を磨くことの必要性を強調されています。

本書が読者の皆様の人生に必ずや資することを確信し推薦させていただきます。